

# 色彩検定1級2次試験

## 合格のコツ

2次試験前にしっかり理解してほしい項目

フォーティーフォー(44)カラースクール

## ▶ 2次試験合格のコツ

時間は90分、基本的な問題が多いのですが、表色系や配色をしっかりと理解していないと正解まではたどり着けません。たくさんの条件がついているので、気持ちを集中してそれを見逃さないようにしましょう。

ただ、ここ数年は問題数が少ないので落ち着いて解答すれば時間は大丈夫です。文章をしっかりと読み取りましょう。

## ▶ 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

前述のように2次試験は基本の項目をしっかりと押さえていれば全問正解が出来る内容です。ただし、基本の項目と言っても次のようにたくさんあります。

公式テキストの関連個所を都度読み直し、しっかりと理解してください。

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

### 1. 三属性の見方とPCCSの基本理解(3級)

#### (1)色相

色相番号、色相名、は完全暗記。(和名、カタカナ英名)

1級では色を見て色相とトーンが分かるレベルになることが必要です。

#### (2)明度

以前は全ての色の明度を覚えることが必要でしたが、現在では完全暗記は不要なようです。ただ、どのトーンにおいても黄(8番)が一番高く、青紫(20番)が一番低いことを意識し、同一トーンであれば18、20、22はすべて同一明度ということも知っておくといいでしょう。

→2級 付録 PCCSトーン別明度一覧表

#### (3)彩度

彩度についてPCCSではトーンによって明確になっています。

高彩度… 8s(b, dp)、9s(v)

中彩度… 5s(sf, d, dk)、6s(lt+)

低彩度… 2s(ltg, g, dkg)、3s(p+)

#### (4)トーン

①大まかなトーンとしての明度・彩度分類のように3つに分かれるが、細かな問題の場合、P+、lt+は色の表現の関係からカラーカードでは彩度を1ずつプラスしている。

②「トーンのイメージ」と「系統色名の修飾語」を完全に覚える。

・トーンの仕組み 純色・明清色・暗清色・中間色

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

### 2. 色彩調和(3級)

#### (1) 色相配色

① 配色名(同一、隣接、類似、中差、対照、補色)、色相差、角度等を覚える。

#### (2) トーン配色

① 同一トーン、類似トーン、対照トーンの意味を理解する。

### 3. 色の表記方法(全級)

① 全ての表色系をカラーカードに変換出来るようにする。

本来はオストワルト、NCS、XYZ、などすべての表色系をカラーカードに変換できるのがベストだが、検定ではマンセル表色系との変換のみが出題されている。

② PCCSの三属性表記からもカラーカードに変換出来ること。

③ マンセル表色系の完全理解(2級)

④ PCCSとマンセルの変換も理論的に覚える。

マンセルとPCCSの色相の変換は検定問題の測色の問題に変換表があるので覚えなくてもいいようです。ただ、基本的に下記の変換を覚えておくと便利。

参考 2:R→4R 4:rO→10R 8:Y→5Y

14:BG→5BG 16:gB→5B 18:B→3PB 20:V→9PB

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

### 4.色名

(1)慣用色名 →3級・2級巻末掲載の慣用色

①よく出題される慣用色名をカラーカードに変換しておく。

②マンセル値から読みとる。

③色の由来や意味を覚えておく(キーワード)

④慣用色名をJISの系統色名に変換できるようにする。

(2)系統色名

①PCCS系統色名からカラーカードを選ぶ。(前述のPCCS修飾語)

②JIS系統色名との違いも覚える方がいいが新テキストでは巻末資料となっているため出題範囲外。

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

### 5.配色調和論（1級）

後述の配色技法と繋がるのでその関係は一応理解しておいてほしい項目。

#### (1)ジャッドの理論

※4つの原理(他の配色と関連付けておく)

秩序の原理・・・オストワルトの各系列など

なじみの原理・・・ナチュラルハーモニー、トーンオントーンなど

類似性の原理・・・色相、トーン、ドミナント、トータルなど

明瞭性の原理・・・ビコロール、トリコロールなど

#### (2)シュブルール調和論

※2次試験に出る可能性は低いですが理解しておいてほしい項目

①ドミナントカラー

②黒は輪郭として最適

③セパレーションカラー

④補色調和

#### (3)ルードの調和論

①ナチュラル配色

②コンプレックス配色

③中間混色

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

### (4)オストワルトの調和論

- ①無彩色による調和
- ②同一色相の調和・・・等白系列、等黒系列、等純系列
- ③無彩色と有彩色の調和
- ④等価値色系列

※色相間隔 類似… 2～4

異色… 6～8

反対… 1 2

### (5)イッテンの調和論

- ①ダイアード・・・2色配色
- ②トライアド・・・3色配色
- ③テトラード・・・4色配色
- ④ペンタード・・・5色配色、白+黒+トライアド
- ⑤ヘクサード・・・6色配色、白+黒+テトラード
- ⑥スプリット・コンプリメンタリー

### (6)ムーン&スペンサーの調和論

※2次試験に出る可能性は低いですが理解しておいてほしい項目

- ①類似性の調和… 同一色相（色相差0）  
類似色相（色相差2）
- ②対照の調和 … 反対色相（色相差8以上）
- ③曖昧を不調和とし、上記以外を第一、第二不明瞭、眩輝とした。

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

### 6. 配色技法

キーワードで覚える。

※(3級)

(1)アクセントカラー…少量、スパイス、反対色（なるべく高彩度）

(2)セパレーション…曖昧な関係をすっきりさせる。無彩色、低彩度、金属色

(3)グラデーション…段階的、リズムカル。三属性のグラデーションあり。

※(2級)

(4)ナチュラルハーモニー・コンプレックスハーモニー・・・自然界の色の見え方

(5)ドミナント配色・・・支配的な、優勢な

(6)トーンオントーン配色…同系色相濃淡配色

(7)トーンイントーン配色・・・トーンを統一

(8)トータル配色・・・ダルトーンを中心とした中間色の配色

(9)カマイユ配色・・・一見すると単色に見える、単色画法

(10)フォ・カマイユ配色・・・少しだけ変化のあるカマイユ。「偽りの」「まがいもの」

(11)ビコロール・トリコロール配色・・・明快な2色配色・明快な3色配色

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

### (12) 色相分割配色

- ①ダイアード・・・2色配色
- ②トライアド・・・3色配色
- ③テトラード・・・4色配色
- ④ペンタード・・・5色配色、白+黒+トライアド
- ⑤ヘクサード・・・6色配色、白+黒+テトラード
- ⑥スプリット・コンプリメンタリー  
・・・分裂補色配色

### 7. 配色イメージ (2級)

(1)エレガント・カジュアル・クラシック・クリア・シック・ダイナミック・ウォームナチュラル・フレッシュナチュラル・モダン・ロマンティック

(2)各イメージの色相・トーンを覚える

(3)インテリアイメージについても理解しておく

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

### 8.ファッションカラーの変遷（1級）

#### (1)各年代のファッションカラー

1950年代

シネカラー・パステルカラー・モーニングスターブルー

1960年代

ヒビッド・サイケデリック・シャーベットトーン

1970年代 ナチュラルカラー・アースカラー

1980年代 黒とビビッドカラー

1990年代 カジュアル・アシッドカラー

2000年代 多色展開・白とピンク

2010年代 ベーシックカラーとカラフルカラー

#### (2)キーワードと配色を覚える

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

### 9. 景観・色彩調査（2級・1級）

(1) 景観の用語について理解しておく(記述式問題あり)

(2) 「色彩分布図」の見方を理解しておく

(ただし2020改訂版には表記なし)

① 横軸が色相(JIS表示)

② 縦軸は上が彩度表、下が明度表

③ 観測データを点として表示し、

どの色が多いかを示す図を理解する。

以上

フォーティーフォー(44)カラースクール

## 2次試験前にしっかり理解してほしい項目

**無断転載を禁ず**